

● 21世紀をめざして…

夢とロマンの同友会

第2次中期ビジョン



福岡県中小企業家同友会

同友会の3つの目的

●よい会社をつくろう●

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して、企業の自主的近代化と強靱な経営体質をつくることをめざします。

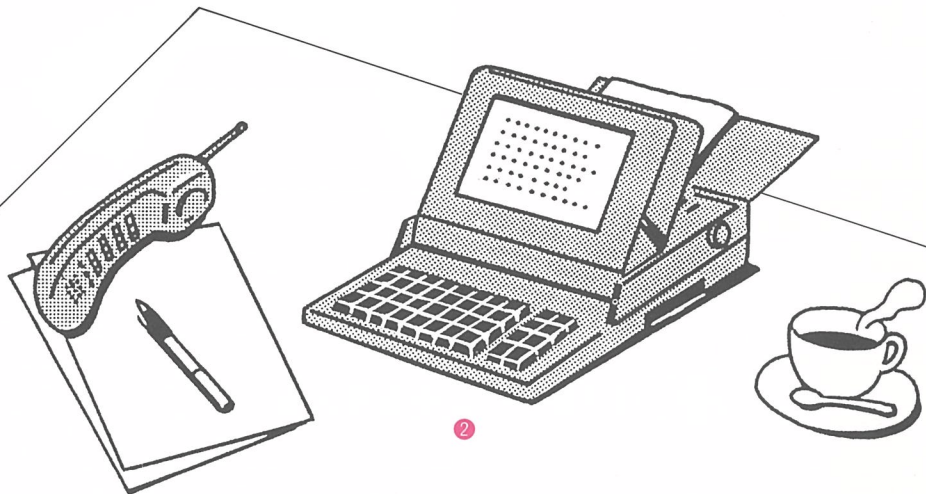
●よい経営者になろう●

同友会は、会員の自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

●よい経営環境をつくろう●

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

全国組織としての中小企業家同友会全国協議会は、昭和44年（1969年）に誕生しました。その第5回総会（昭和48年）で上記の『3つの目的』を制定しました。この『3つの目的』は、同友会員にとって精神的な“よりどころ、であり“憲章、ともいうべきものです。



第2次中期ビジョン

21世紀をめざして…

●未来へはばたく、希望の架け橋

〈はじめに〉

福岡同友会は、1963年（昭和38年）の3月25日、東京大阪、愛知につづき、全国第4番目に誕生し、1993年に輝やく創立30周年を迎えます。

いま、全国に37都道府県の同友会があり、いくつかの準備会が結成を間近かにし、約4万名の会員を擁しつつあり、ユニークな異業種の中小企業団体として、着実に発展をつづけています。

私たちは、日本経済を今日、高い水準に発展させた力は、中小企業のバイタリティであり、今後もその社会的な責任と役割りの重要性を認識し、『自主・民主・連帯』の理念を高くかけ、運動をすすめていきます。

また、1984年（昭和59年）には、社会や、経済の著しい変化に即応し得る、中小企業家自身の資質、能力、人間性がきびしく問われていることを自覚し、新しい視点に立って、「同友会のめざす経営者像」を作成させました。

“同友会理念、をベースに、第27回定期総会で第2次中期ビジョン委員会が発足し、草案について、会員相互の意見や、提案を整理し、委員会でまとめました。

ビジョン＝未来の理想像です。ビジョンの実現は、すべてその実行にかかっています。大きな希望をもって、県内すべてに、網の目のように同友会をつくりましょう。



同友会のめざす経営者像

1991.9改定

- 1 社会性**
企業を通じ、地域社会に貢献する経営者をめざします。
- 2 企業性**
経営指針を確立し、すぐれた業績をあげる経営者をめざします。
- 3 人間性**
従業員を真のパートナーとする、人間尊重の経営者をめざします。
- 4 文化性**
共に学び、健康で文化豊かな経営者をめざします。
- 5 未来性**
先見性と独創性をもって、輝かしい未来を拓く経営者をめざします。

中期ビジョンの大綱

〔第1章〕

人間性ゆたかな経営をめざします。

- (1)企業づくりは人づくり
- (2)人材の安定確保と育成
- (3)障害者雇用運動と全国的なひろがり

〔第2章〕

強い立派な企業づくりをめざします。

- (1)経営理念（哲学）の確立
- (2)「経営指針」を成文化しよう
- (3)経営計画の策定と全社一丸の企業づくり

〔第3章〕

情報機能の充実と異業種交流で企業の発展をめざします。

- (1)感性をゆたかな発想で多面的な異業種交流
- (2)全国プラザの経験交流とネットワークづくり
- (3)県の情報センター部門との提携と機能の強化

〔第4章〕

“創造する企業文化、”をめざします。

- (1)文化的な情操をゆたかに、複合型の人間づくり
- (2)健康管理のシステム化で、“会と企業、”に活性化を
- (3)地域社会に対する文化的な貢献

〔第5章〕

組織の拡充と強力な運営機能を確立します。

- (1)2,000年に会員10,000名の同友会をめざして
- (2)県内に“網の目、支部づくり
- (3)会勢に対応する役員の役割りと事務局体制づくり

人間性ゆたかな経営をめざします。

(1) 企業づくりは人づくり

「企業は人なり」といいますが、今ほどその重要性を問われている時期はありません。

それは時代の変化により社会構造が大きく変わっているからです。本来企業は人が動かすものですが、近年その内容が変化して単純作業や肉体的作業はオートメ化され人を必要としません。今は、人間でなければ出来ない仕事(作業にあらず)を行なう人材が必要だから重要になったのです。

一方では産業構造の変化で人材が不足、更に勤労意識の低下による労働力不足が問題となっていますが、中小企業では特にひどくなっています。

このような環境で企業を守り発展させるには、そこで働く人材の人間性を尊重し個性を充分引き出すことが重要なことです。

ここでいう人間尊重とは経営理念を正しく理解させ、地域社会にどのように貢献しているかを納得させると同時に労働環境の改善が必要でしょう。それが人々に生きがいを持たせ楽しく働かせる要点です。

これらは最近社会進出がめざましい女性やシルバー人材にも必ずや共感が得られるはずです。

(2) 人材の安定確保と育成

中小企業にとって優れた人材確保は大変なことです。また、全体的な労働力不足や強力な求人システム等で大企業との格差は開く一方です。

しかし、わが同友会はこの悪条件下でも全国ネットワークを組んで地域産業の次なる担い手として、また人間尊重の経営を支えるよきパートナーとしての人材確保のため、一丸となって共同求人活動を行なっています。

更に充実させるため、従来の制度の整備と、これからの人材(財)といわれる、女性勤労者やシルバー人材の登用も充分考慮することが肝要です。更に、近隣の外国人労働者の活用もさけて通れない問題となって来ました。

一方、新社会人は年々一定の数だけ輩出して来ます。私達はこれを好不況という面から採用するのではなく、単立って来る人材は一定数必ず確保するよう常に心がけねばなりません。何故なら、すぐに役立つ人材などい

る筈もないし、また人材を必要としている企業の信頼を得ることも出来ないからです。

- 今後の課題としては
- ① 共同求人活動の充実
 - ② 就職指導者との定期懇談
 - ③ シルバー人材協会との懇談
 - ④ 求人相談センターの開設
 - ⑤ 福利厚生などの処遇改善運動

等の問題点が重要となりましょう。

次に企業はトップの器以上に大きくならないといわれていますが、中小企業では特にこのことが大切です。

具体的にトップの役割としては、人を惹きつける人間的魅力、先を読む洞察力、夢を実現するパワー、信頼に値する人格、優れた決断力、豊かな感性等、人を動かす力が不可欠の条件です。

私達はこれらを満たすため、日夜努力を続けています。この実践こそ次の人材を、又その次を育成することになります。

同友会のいう「共育」とはこれが原点であり、トップを初め企業全員の成長を願って敢えて社員教育とせず人材育成と表現しているのです。

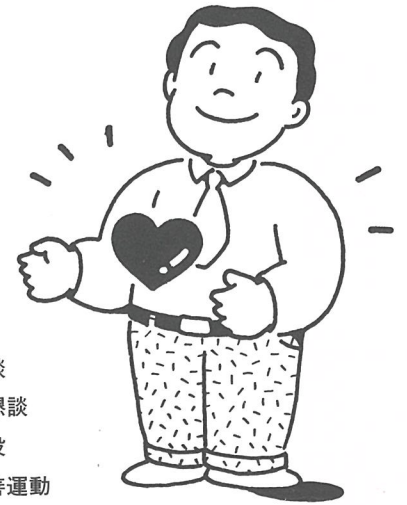
又、人は生まれながらに全てを兼ね備えた者はいません。私達は自分自身の未熟時代を振り返り、永年経験したノウハウを充分活用して次なる人材育成のため基礎講座を初め中堅社員講座等、幅広いシステム教育を確立して人間尊重即ち、個性を引き出し人材の「ヤル気」を充実させることが肝要です。

(3) 障害者雇用運動と全国的なひろがり

障害者にも当然、人間らしく、心豊かに生きる権利があります。同友会は人間尊重の立場から彼等を健常者と同様に雇用拡大する運動を全国ネットで推進してきました。

その中で優秀な成績を上げている企業がいくつもあります。これは我々のもっている先入観を払拭して雇用の拡大を教えています。

従って、この運動を更に強力な全国ネットで拡大することが、地域への貢献と同時に求人難解消の一助となる訳で、「共に育つ」という立場から大切です。



強い立派な企業づくりをめざします。

(1) 経営理念(哲学)の確立

企業は何のために存在するのでしょうか。「理念」とは、「事業・計画などの根底にある根本的な考え方」「理性で考えられる最高の概念」と解釈してよいでしょう。

どのような企業をめざすべきか。企業の基本的な方向、社会的な存在価値と、その価値基準、行動の基準を示した企業が持つべき共通の基本姿勢です。とくに、中小企業は、その存在基盤が地域にあるとの認識の上で、地域に根差した企業に成長するという基本的な理念と共に、経営者自身のもつ人生観・社会観・価値感・世界観など、ものの見方、考え方、その生きざまが、色濃く反映します。

したがって、そこに一貫したものが必要ですし、「物の豊かさ」「心の豊かさ」など、どちらを優先させて、社会全体の意識水準とマッチさせていくのか。など、中小企業に縁あって集まってくれた従業員と共に、どのように企業を発展させていくのか。従業員がいかにか生きがいを職場に求めているのか。経営者は、人間尊重の立場にたった確固たる方針を全社員に示すことが大切です。

(2) 「経営指針」を成文化しよう

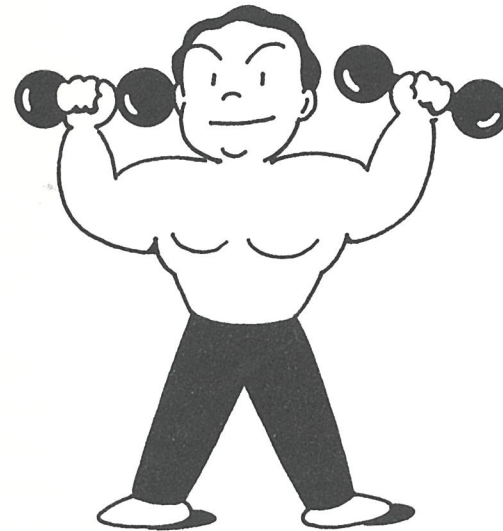
経営理念をベースに、自社の将来あるべき姿を思い描き、それをはっきり文章で表現し、現状とのギャップが、どのようにあっても中・長期の業績目標を示し、それに到達するための企業活動の道すじを示しましょう。

さいきんは、技術革新が進み、国際化、サービス化の進展とともに所得水準の一定の上昇に伴う消費者ニーズの多様化といったことなどで、経営構造が大きく変化し、新しい産業分野や、複合的な製品などの登場によって、従来と異なる企業間競争がはげしくなり、いわゆる業際化や、融合化が活発化しています。経営構造の再構築をふくめて、全社的な英知の結集が非常に重要です。

(3) 経営計画の策定と全社一丸の企業づくり

自社をとりまく経営の環境の変化を正しく分析し、自社の強味や特長を伸ばすための経営計画の策定に、全社のエネルギーを総結集しましょう。経営計画は、経営理念をベースに、経営方針や、経営戦略をさらに具体化するもので、企業の目標を達成するための手段や、方策、手順を示すものです。

経営計画を体系としてとらえると、①中・長期計画(戦略的計画)②短期計画(利益計画)があるが、それぞれの特長を生かして、自社の未来像を社長自身のリーダーシップによって、従業員との協力を深めて、企業経営の羅針盤とよばれる『経営計画書』をつくりあげましょう。



情報機能の充実と異業種交流で企業の発展をめざします。

(1) 感性をゆたかな発想で多面的な異業種交流

我々中小企業は、常にユーザーのニーズを先取りし新しい技術を取り入れ企業をとりまく諸問題を解決しなければなりません。

そして、常に新商品の開発をおこない厳しい企業間競争で打ち勝ち発展させなければなりません。

自分の企業および同業のなかでは到底解決できないものが、異業種の経営者、年輩者と若者の違い、女性らしい感性ゆたかな発想、アイデアなどちょっとした会話、アドバイス、ヒントで既成の概念をくずしその問題解決の糸口をつかむことができます。

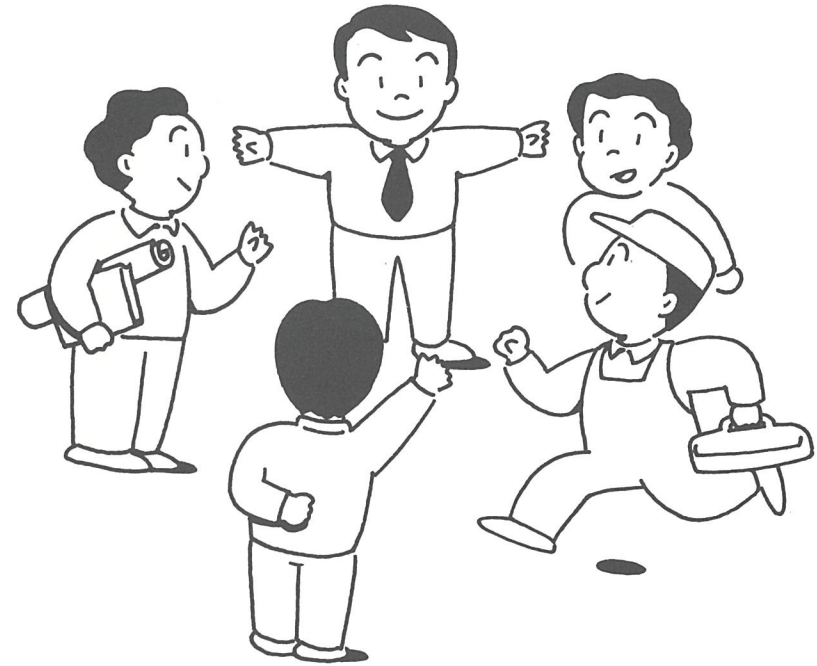
また、異なる業種は、型にはめられた会議や研究よりむしろ、課題のないサロンのな雰囲気や例会後の雑談、赤ちょうちんで一杯の中で意外なアイデアをつかむことができます。

- ① 本音で話し合える「異業種交流のプラザ」を系統的に開催し人・物・金・時間・空間・情報・デザインなどの交流をおこないます。
- ② 異業種交流の情報収集と「買います・売ります・儲かります」などの情報誌・ニュースの発行をおこないます。
- ③ パソコン通信を活用した異業種間のネットワークシステムをとりいれます。

(2) 全国プラザの経験交流とネットワークづくり

この異業種交流は全国のレベルにいきますと毎年、7月に開催されます中同協の全国総会、また2～3月に開催されます中小企業問題全国研究集会の分科会で東京の例、神奈川の例、愛知県、京都、千葉県の例また隣の韓国との国際的な交流など多くの成功例や失敗例など率直にかつ大胆に報告や意見討論会がおこなわれています。

これらの全国の多くの成果の情報、資料を事務局に収集し全国的な経験交流のネットワーク広げていきます。



(3) 県の情報センター部門との提携と機能の強化

21世紀へむけて10,000社への会員の要求に即時に対応すべき現在の情報センターの拡充と機能の強化をしていきます。

事務局内にコンピューター端末機を設置し福岡県中小企業情報センターのデータベース（別紙資料〇〇〇）により業界別、業種別、また新技術新商品の情報を即時に取り出せるようにします。

パソコン通信ネットワークを導入し、電子メール、電子会議、電子掲示板などを活用し緊急を要する情報、事務連絡、事務報告など即時にコミュニケーションが図れるようにします。

“創造する企業文化”をめざします。

会員相互の親睦や、企業に働く社員、家族とのホットな交流をめざして、今日まで、創意を生かした多彩で多様な企画・行事が行われてきましたが、さらに会勢の増加、発展にともなって、規模・内容ともに充実したものが期待されます。

“3つの目的”にそって、心と体の豊かさを追及する『創造する総合文化』をめざしてすすみましょう。

(1) 文化的な情操を豊かに、複合型の人間づくり

これからの中小企業活動は、経済至上主義でなく、あらゆる文化芸術の振興にともない、地域社会のニーズに応え得る芸術性と心身健全な複合型の人間づくりをめざすことが非常に大切です。委員会を設けるについても、その名称を文化・スポーツ委員会とし、さらに細分化した小委員会をつくり、活性化しましょう。

単発型スタイルから、サークルや、グループづくりをめざし、自由で潤達な躍動を通じて、自らの感性を磨きます。

- ① 映画・演劇・音楽・写真・文学・絵画・俳句・川柳など、情操を豊かにし、人間性をより高める活動。
- ② ソフトボール・ゴルフ・野球・卓球・テニス・競泳・運動会など、競技を通じて、心身を鍛練する活動。
- ③ 登山・釣り・ハイキング・囲碁・将棋など、趣味領域の仲間づくりを積極的におこなう活動。
- ④ 国際化の第一歩は、会話から。同友会独自のカルチャー教室。英語・米語・韓国語・中国語・ロシア語・ドイツ語その他。
- ⑤ 会員が共有できる総合的な「同友会館」の建設。

(2) 健康管理のシステム化で、“会と企業”に活性化を

年代別による「健康管理」のシステムづくりを促進し、専門医の指導協力によって早期発見、早期治療に努力し、心身ともにリフレッシュし、会と企業の活性化をはかります。

- ① 希望する会社に系統的な定期診断制度の確立。
- ② 自然環境に恵まれた山峡の地に“共同の保養所、づくり。
- ③ “同友健康体操、などを創作し、例会などで披露し、習慣化します。

(3) 地域社会に対する文化的貢献

その時々状況に応じ、地域と共にあゆみつづける同友会の姿をあらわす行事を企画し、実行します。

例えば中央・地方の著名人などによる「文化記念講演会」をひらき、一般市民に開放するなど。

「芸術文化振興事業同友基金」を積み立て、地域に埋もれた各分野の芸術創造活動を継続的に育成し、援助し、地域社会に寄与し、新しい時代に対応します。



組織の拡充と強力な運営機能を確立します。

(1) 2,000年に会員10,000名の同友会をめざして

いま、福岡同友会の対象とすべき中小の事業所は、73,000社ありますが、将来、都市を中心に増加の可能性があり、中期ビジョンでの最終目標を会員数10,000名とします。(県下中小企業家の10%以上)

異業種の中小企業家が、同友会理念に基づく「3つの目的」をかけた、自主・民主・連帯で団結し、全国同友会と共に、九州での未組織県へも働きを強め、壮大な人生のロマンをかけた「同友会づくり」をすべての会員と共に達成させましょう。

(2) 県内に「網の目、支部づくり

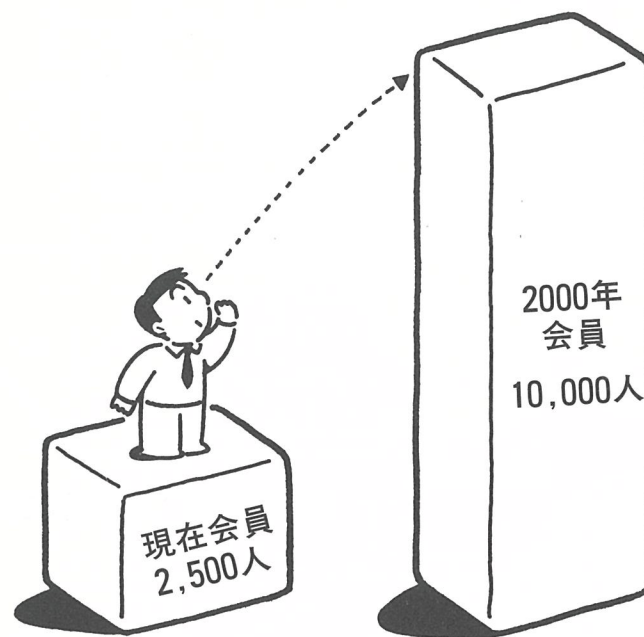
毎年の県総会で、その年度の重点地区を決め、集中的に支部づくりの活動を行います。県内の4つの生活経済圏のブロックで、現在の空白地域は、筑豊地域圏です。その拠点都市は、飯塚、直方、田川の三市です。飯塚は福岡からの支援。直方、田川は、北九州からの支援体制とします。あと、宗像、行橋、豊前、甘木、八女の各市をはじめ、郡、町、村の小単位の計画を立て、新支部の設立にむけて、空白地域対策専任の役員と事務局体制の確立をはかります。それらの地域の知人、友人、取引先の情報を常時、事務局へ集中し、「網の目、支部づくりに努力しましょう。

(3) 会勢に対応する役員の役割りと事務局体制づくり

組織の拡充、会勢に対応するためには、その推進力となる常任理事会、理事会の集団指導体制によるリーダーシップと、会活動の総合的な要求に応えるハイ・ブレンな事務局体制の発展こそ、重要なカナメです。

同友会活動の源泉である支部活動と、委員会活動のいわゆる、タテ糸とヨコ糸の織りなす多彩で多面的な活動がうまく結合しながら、螺旋状にのぼりつめる活動が大切です。

その成功のカギは、毎年の総会で決定した活動方針を正しく理解し、同友会理念で団結し、活動をすすめるという立場から、理事、



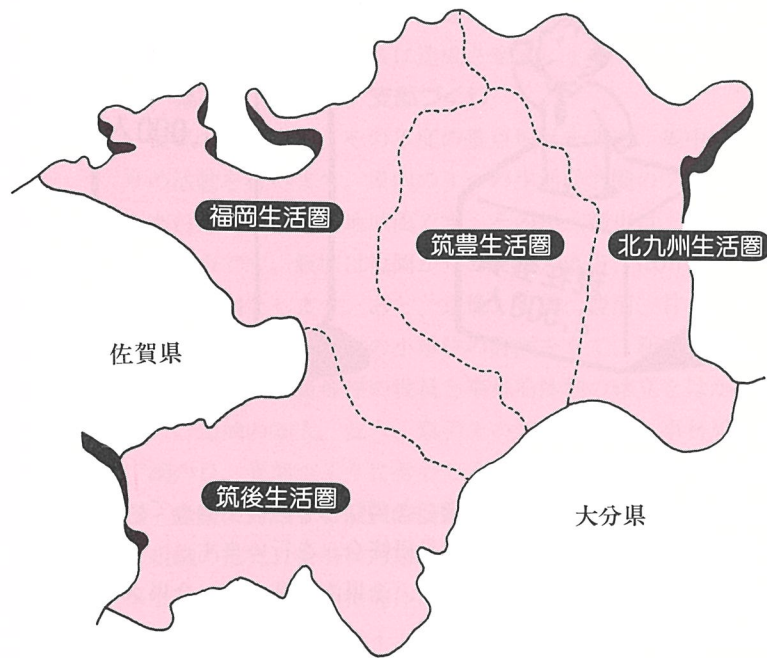
常任理事に推せんされた役員の「研修」と「行動力」にかかっています。そのために、時宜に応じた「役員研修会」を行います。

また、時々の重点課題の実行に対して、全県支部長会議、全県グループ長会議などもひらきます。

会勢10,000名を展望する同友会に相応しい事務局体制も、たえず多面的な要求を受け止め、推進できるネットワーク・コーディネーター・オルガナイザーなどの多能的で総合性をもった企画力が問われます。そのためには、ひとりひとりの埋もれた能力を開花させるための「特別の研修体制の確立」と、システム化された教育期間の保障も必要です。

県内のすべてに 網の目のように 同友会づくりを!

〈行政区単位の支部組織の確立を〉



法人企業数

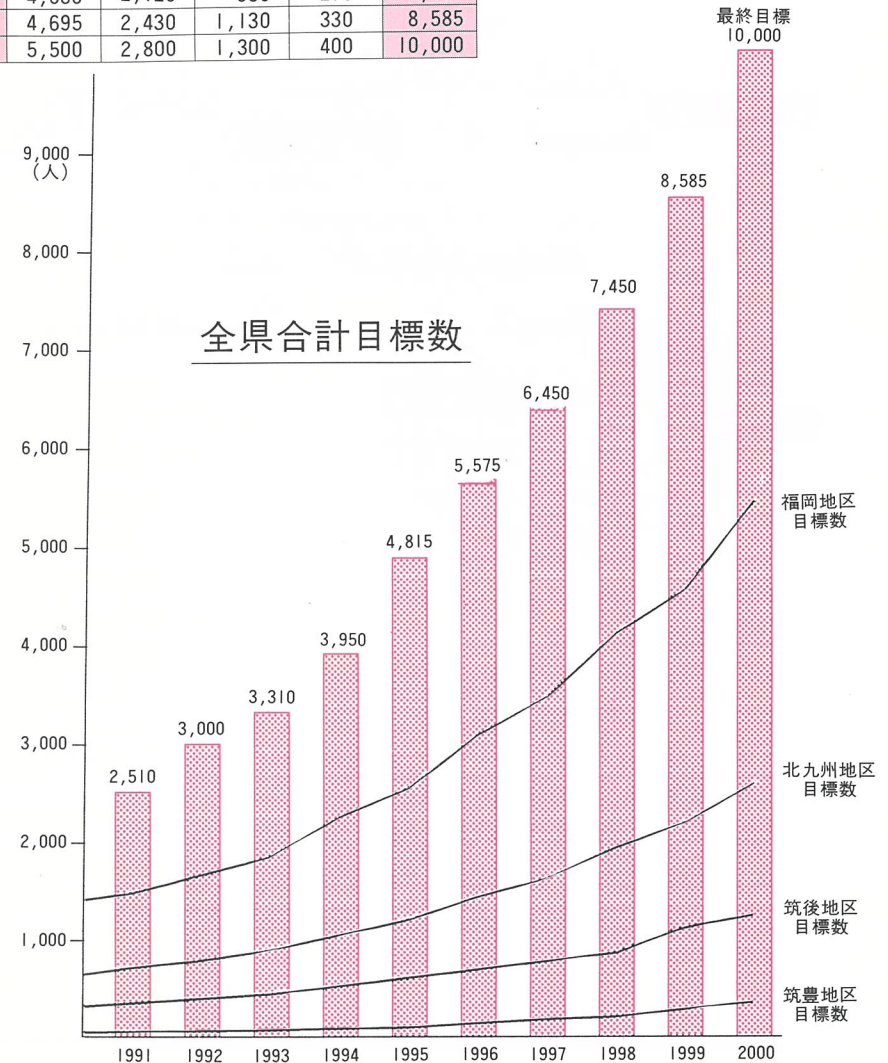
	福岡地区 生活圏	北九州地区 生活圏	筑後地区 生活圏	筑豊地区 生活圏	全県合計
現在法人 企業数	37,583	20,815	9,728	5,018	73,144

福岡県は97行政区

- ①政令指定都市…(2)
- ②一般市……………(20)
- ③町……………(67)
- ④村……………(8)

会員目標の数値

年次	福岡地区	北九州地区	筑後地区	筑豊地区	目標数
1991	1,500	650	350	10	2,510
1992	1,720	800	440	40	3,000
1993	1,850	920	490	50	3,310
1994	2,230	1,100	560	60	3,950
1995	2,680	1,390	645	100	4,815
1996	3,085	1,600	740	150	5,575
1997	3,550	1,840	850	210	6,450
1998	4,080	2,120	980	270	7,450
1999	4,695	2,430	1,130	330	8,585
2000	5,500	2,800	1,300	400	10,000





ひろげよう！自主・民主・連帯の輪

同友会は、中小企業家の自主的な組織だからこそ、魅力があります。なにものにも制約されず、会員のだれもが自主的に参加できるし、運営できるところに魅力の源泉があります。

自主的とは Independence (インディペンデンス)

外部の圧力や、機関から独立した組織、つまり『ひもつき』でなくて、自分の頭で考え、自分たちの会費で活動しますから、寄らば大樹の陰といった安易な考え方でなく、外部からの制約も受けないまったくの『手づくりの会』です。

「みんなの知恵をあつめる会」であり、「心から話せる会」として、会員のなかに定着させましょう。

会員は、自らの自主性を基礎に、その参加意識を高めあいましょう。

民主的とは Democracy (デモクラシー)

同友会を発展させるための基礎は、民主的な運営です。ボスの存在を許さず、会員は入会したときから、対等平等で、会の主人公と考えます。

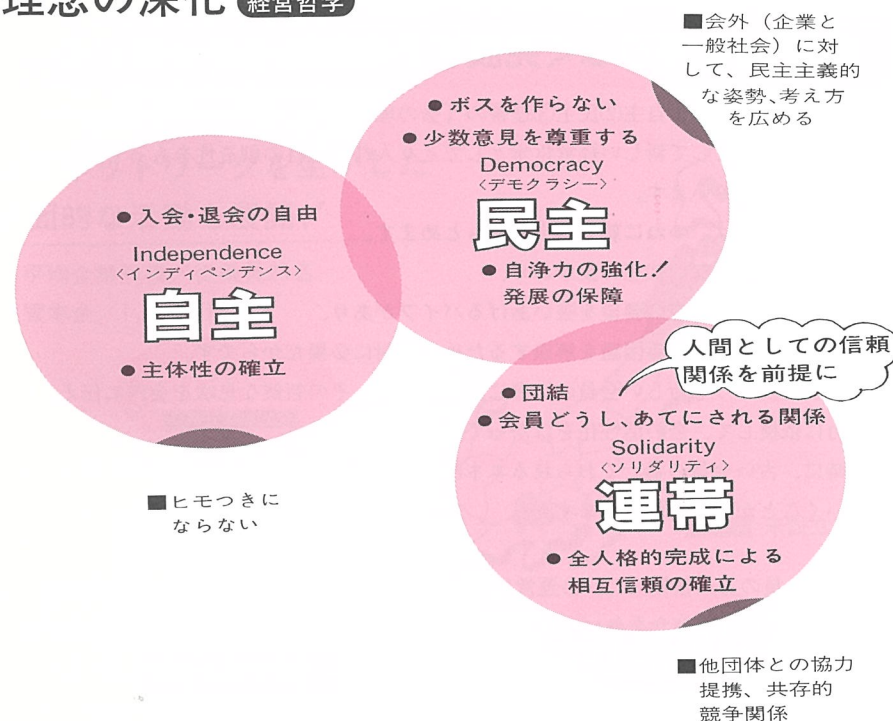
なにごとを決めていく場合でも、『全員一致』を原則として理解と納得を深めます。したがって、同友会のひらくいろんな会合がすべてひらかれたものになっているか、どうかは、常に大切です。

と同時に、民主的な運営を保障するためには、役員や、事務局がつねに会員とのふれあいを大切に、新鮮で率直な意見をひろく、深く汲みあげられるように努めなければなりません。

そのためには、それぞれの会員が自己主張をいたづらに押しついたり、企業規模や年商の大小にこだわらず、新・旧の会歴、年齢差などで区別することがないように配慮しながら、自由にモノがいえる雰囲気づくりがもっとも大切です。

もちろん、人間形成のなかで、会員のもつ思想、信条や信仰などの自由は保障されなければなりません。

同友会運動における 理念の深化 経営哲学



連帯とは Solidarity (ソリダリティ)

『云いたいと思っていたことは、簡潔に全部話し、聞きたいと思っていたことは、納得できるまで聞く。』

会合が終わったときには、すがすがしい満足感と、同友会の良さが味わえる…』そのような気持ちでいたいものです。

中同協

〈中小企業家同友会全国協議会〉

●日本で初の「異業種」でユニークな団体です。

●中同協全国協議会

1969年(昭和44年)11月17日

5つの同友会・会員数640名で結成

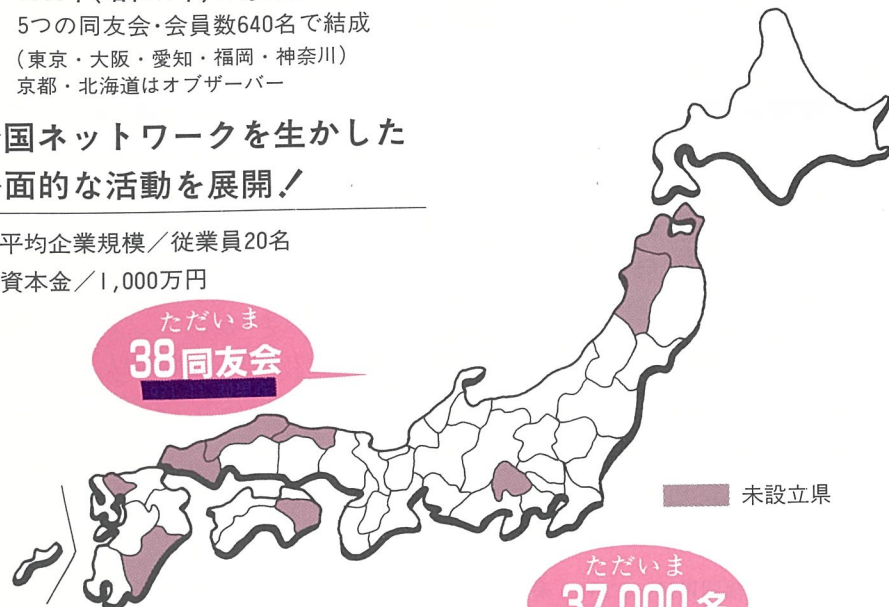
(東京・大阪・愛知・福岡・神奈川)

京都・北海道はオブザーバー

全国ネットワークを生かした 多面的な活動を展開!

●平均企業規模/従業員20名

●資本金/1,000万円



おもな行事

- 全国では①「中同協総会」……………7月
- ②「中小企業問題全国研究集会」…2月
- ③「青年経営者全国交流会」……………9月

■九州では…「九州ブロック会員交流会」……………10月

■福岡では

- ①「定時総会」……………4月
- ②福岡県経営者フォーラム…10~11月
- ③県下各支部例会(毎月)
- ④各委員会・専門部会
- ⑤小グループ別例会など



人間の生きざまを語る…“人間は連帯のなかでこそ、幸せをつかむことができる、

同友会運動のながいあゆみのなかで、風雪に耐え、先駆的な役割りを果たされた諸先輩は、ただ福岡だけでなく、全国に数知れない人々がいますが、その実感を語っています。激動の時代を生き抜き、ともに『連帯する良き友』として中小企業家のため“辞書の1ページ、の役割りに誇りをもち、新しい“生きた教材、から学ぶ、という姿勢こそ大切です。

同友会は、限りなく発展する可能性をもっている

創立の原点である①自主②民主③連帯の「会の理念」を、それぞれの中小企業家のなかへ、会社の柱として新しい経営哲学としてとり入れ、独自の創造性をもって展開されるようにのぞんでいます。

また、同友会は、つねに新しい会員をもとめます。

- ① 汲めどもつきない知恵の泉があり、
- ② 広範な中小企業家の要望を吸いあげるパイプがあり、
- ③ 中小企業が当面する困難を解決するために絶対に必要なからです。

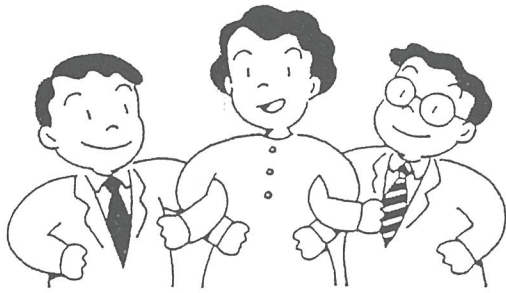
同友会は、いつも新しい会員の知恵に謙虚に学び、その新鮮な息吹を会内に伝え、新しい力に依拠して、会の活性化をはかっていきましょう。

同時に、古い会員の蓄えておられるエネルギーを有効に引き出し、会活動の厚みを増していくことが求められています。

新しい会員の方に積極的に、会運営に参加していただき、古い会員との共同の学習、行動を通して同友会理念を身につけるようにしましょう。幅広い多数の中小企業家に依拠することなしには、同友会運動は発展しません。また、運動が正しく進んでいるかどうか、会員増減のバロメーターです。

しかし、同友会が熱心にすばらしく、企業に役立つ活動していることが知られても、こちらからの積極的な入会のよびかけを同時に系統的にすすめていかなければなりません。

会員の“知恵、と力をフルに活かして、きめ細かく壮大な運動を展開し、会外の支持と共感を呼び起し、その支持と共感を内の力として、さらに遠くに存在する“知恵と力、をかりて運動をすすめながら発展するすじ道こそ、質が量へ転化し、さらに量が質にかけられてゆく法則にかなった同友会運動であります。そのなかにこそ、限りない発展の可能性が 있습니다。



“知は力”、“数も力”です

壮大な人生のロマンをかけてともに切り拓きましょう

中小企業の数、全国に約650万で、民間企業全体の99%を占め、その従業者数は、3,950万人で、民間企業従業者数全体の82%を占めています。

『一割経済』といわれる九州経済を、全国比で見ると、総面積12%、人口12%、生産農業所得17%、製造品出荷額6%、卸売年間販売額7%、小売年間販売額11%です。

『21世紀の福岡県は…』という県当局が発表した資料によれば、西暦2000年の予測として、福岡県の人口は、約40万人増の510万人、県内の二大都市圏（福岡、北九州）のうち、サービス産業が集中する福岡都市圏は、36万人増の230万人へ膨張するのに対し、鉄鋼など素材型産業に依存度の高い北九州都市圏は、4万人増の143万人と、ほぼ横ばいが推定されます。

炭鉱閉山後20数年を過ぎ、いまなお、石炭後遺症に苦しむ筑豊地域、農業中心で、若者人口の流出傾向が続いている筑後地区は、ともに、産業の活性化が急務となっています。

これら福岡・北九州・筑豊・筑後の四つの地域ブロックの展望は、決して平たんではありません。

それぞれの四つの地域がもつ特色を生かした「地域の活性化」が重要で、「国際化」「情報化」が高い経済力に支えられて成長してゆく過程のなかで、とくに「自然保護、資源保護、との調和が大切な時代をむかえます。

私たち福岡県中小企業家同友会は、創立以来、魅力ある会活動の実践を通して、「企業に役立つ同友会運動」「地域に生き地域に役立つ企業づくり」を提唱してきましたが、これからの中・長期を展望するにあたっては、複雑な経済の動向などを適確に把握して対応しなければならないでしょう。

このような中で、私たちの将来展望を考えた時、どのような課題にとりくみ、どのような「未来像」に接近できるのか。すべての会員の英知と創造を自主・民主・連帯の視点にたってすすめましょう。

私たちは、いま個別の企業として、経

営理念をかけた、経営指針、経営計画をつくり、全社の力を結集して、努力し、発展させてきましたが、どうしても自社だけの力では解決できない問題があります。とくに、社会や産業の構造が複雑になればなるほど、高度に経済が発達すればするほど、中小企業の存立基盤の脆弱性を多くの中小企業経営者が体験しています。

「知は力」「数も力」といわれるように、「異業種相互の潜在的な知恵」が無限大に集めることが可能になれば、すばらしい力が発揮できます。同友会の「知」の源泉は、くめどもくめどもつきないものです。

福岡同友会が、5,000名、10,000名と飛躍時点を想像すると、それ自体の数もパワーになりますが、地域社会の経済の活

性化にとっても大きな貢献です。

福岡同友会の「姿」を市民の目、県民の目に大きく映るダイナミックな運動の継続的な展開と、個別会員企業の多面的な要望実現が結合した時に、ますます前進の保障が出てきますし、行政や諸機関の対応も前進します。

福岡が、10,000名になる時には、全国くまなく47都道府県に同友会が結成され、150,000から200,000の大組織になって、「中小企業のリーダー的存在」になるでしょうし、そのことが、どんな「経営環境」にも屈しない強じんな企業づくりに大いに役立つ相互の関係が、正しく機能することになります。

壮大な人生のロマンをかけ、未踏の地をともに協力して、切り拓きましょう。

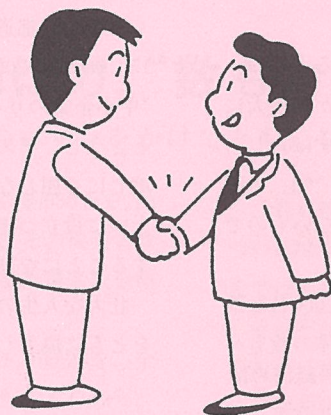


あ と が き

『中期ビジョン』（案）について、会員のみなさんの卒直な意見の交流と理事会の検討を経て、やっと出来上りました。

読みやすく、簡潔に、判りやすくという意向をくみ、つとめて短かくしたので、不充分さが残っていますが、補足をねがって、同友会活動の前進にご活用ください。

〈中期ビジョン委員会〉 1991. 12. 1
諸岡昭三郎・原 徳・清村 克行
平石 勝之・竹中 駿介



福岡県中小企業家同友会

■本部事務局

福岡市中央区天神1丁目3-9天神ユーアイビル

☎092(741)7741

FAX(092)741-7795

■北九州地区センター

北九州市小倉北区三郎丸3-14-22 石橋ビル

☎093(922)7326

FAX(093)922-7327

■県南地区センター

久留米市東合川町 5-8-5

(久留米地産振興センター3F)

☎0942(43)7130

FAX(0942)43-7377

